

## 100号の発刊にあたり

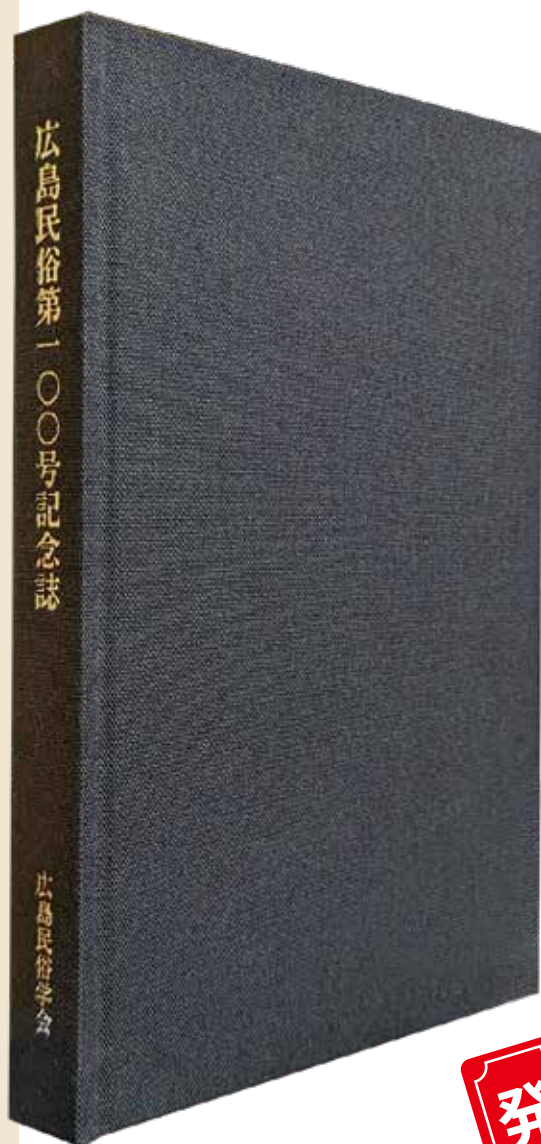
広島民俗学会は、昭和48年9月に創立され以来50年を経過しました。この間毎年会員の調査・研究を発表する会誌を2冊発行し、2回研究会を開き、その内1回は県内各地を訪ね民俗行事等を見学する現地研究会として続けてきました。また昭和59年には発会十周年記念誌として『広島民俗論集』を発行し、会員各氏の県内各地の研究論文を掲載しました。現在執筆された方々もほとんどが鬼籍に入られ、貴重な民俗記録集になっています。創立50年にあたり節目となるものと計画しましたが、会員数の減少等の事情により論集の発行は見送り、会誌を記念号としました。会誌100号を発行するにあたり、長年にわたる会員の皆様のご協力に感謝の意を込め、会誌の体裁を変え特別号としました。

広島民俗学会の創立の契機は、昭和43年より編集企画が始まった『広島県史 民俗編』でしょう。監修に当たられた故宮本常一を中心に県内各地の皆さんが調査し、原稿執筆にあたられ、昭和53年に発行されました。この間に、県内で民俗資料の調査・研究や収集・保存等にあたられている方々の情報交換や調査・研究の向上を目指して学会が発足したと「広島民俗」創刊号に記されています。

昭和30年代後半からの「開発の進行や生活様式の急激な変化は、民俗を変質させ、資料の散逸を進めている」なかで、会員相互の連携がはかられ、調査・研究の成果は会誌に掲載され、貴重な記録となっています。また私たちの生活様式の変化は、この50年間に科学技術の発達等により、自然環境や社会環境、衣食住の生活環境全般にわたって激変しています。とりわけ、自然災害や2020年来のコロナ・ウイルスの感染防止のための、「ソーシャル・ディスタンス」人々の接触規制は、人々によって伝統として伝えられてきた民俗文化を改変しつつありますが、各地に根ざしている民俗芸能や民俗行事は、地域に暮らす人々を結びつけるアイデンティティの一つになっていることを気づかせ、我々にエネルギーをあたえてくれます。

また、近年国内各地より、広島県の盆行事や郷土食について問合せが事務局に来るようになりました。そのつど既刊の会誌の中から関係する掲載論文や、また関係分野の調査・研究に当たっておられる会員を紹介しています。改めて民俗文化が見直され、その価値が再認識されつつあるようです。この50年間の学会の活動を振り返りながら、会員の皆様とともに、21世紀の広島の民俗の研究・調査を続けなければならないと考えています。

会長 岡崎 環



広島民俗学会 令和六年三月吉日

# 『広島民俗第100号記念誌』

発刊



『尾の道魚市場』(尾道絵葉書より 明治44年5月6日の日付印)【尾道学研究会蔵】



会誌は広島民俗学会会員、並びに平素の関係団体に配布並びに寄贈するが、予備冊子(約100冊程度)に関しては製作実費にて譲渡可能です。単価は3500円(送料別)。なお、1冊の場合の送料は370円です。

3,500円(税込み・送料別)